

# 榛名神社社報

## 榛名神社由緒記

### 御祭神

はにやまひめのみこと  
 埴山姫命 (生命守護・五穀豊穡の神)  
 やまとたけるのみこと  
 倭建命 (開運・土地守護の神)

すがわらのみちざねのみこと  
 菅原道真命 (学問守護・災難厄除の神)

たけみなかたのみこと  
 建御名方命 (産業守護・健康長寿の神)

摂社・末社  
 おおくにぬしのみこと  
 大国主命 (商売繁盛・良縁結び・病氣平癒・交通安全の神)

琴平宮・熊野社・稲荷社・産泰社・五柱社  
 厳島社・加茂社 面美様

元縣社・利根沼田総鎮守

沼田氏・真田氏・本多氏・黒田氏・土岐氏と代々の城主の崇敬を受け、その由縁の品々が今も保存されている。特に本殿は享禄二年(1529)沼田顕泰の建立、元和元年(1615)真田信之により改築され、豪華華麗な桃山文化を今に伝える。

## 社頭講話II

### 伊勢神宮式年遷宮

来年、平成二十五年、いよいよ第六十二回神宮式年遷宮 伊勢の遷宮が行われます。二十一年一度、伊勢の神宮の内宮(天照大皇神)、外宮(豊受大神宮)ともに、社殿から宇治橋、神宝、祭具、装束などすべてが新調され、大御神に新宮に御遷りいただく、日本最大の神事です。

天武天皇の時代より、千三百年間、(戦国時代の一時を除き)今日まで連続として受け継がれ、すべてを新しく整え、天地のすべてを一新して大皇神の新たな御光を仰ぐものです。神々が若返り、日本という国が若返り、さらには永遠にはつらつとした日本国民の息吹を後世に伝えていくのが遷宮に込められた願いです。

発行日 平成二十四年七月十五日  
 発行所 沼田市榛名町二八五一  
 電話〇二七八(22)二六五五  
<http://harunanomori.com/>  
 発行人 金子浩隆

平成十九年五月には木曾より切り出した御用材を、内宮外宮に運び込む「お木曳き行事」に利根沼田から大勢の皆さんに参加していただきました。が、来年平成二十五年八月には「お白石持ち行事」が、予定されています。

「お白石持ち行事」とは、内宮、外宮の新しく完成した正殿(しようでん)が建つ御敷地(みしきち)に敷く白石を奉獻する行事で、「御木曳き行事」同様、全国から集まった一日神領民がそろいの法被姿で、内宮は川曳き、外宮は陸曳きでお白石を運び、御敷地に奉獻するものです。

千三百年前より受け継がれ、二十一年一度のこの遷宮の行事に神社庁沼田利根支部では、内宮への奉仕希望多数の中、運よく来年八月十一日の奉仕が決定しました。九月の支部総代会総会の日より参加者募集を開始する予定です。ただし、「六十五名」と人数が限られておりますので、ご希望の方はお問い合わせ下さい。

- お白石持ち行事
- 募集人数 六十五名
- 平成二十五年八月十日、十一日、十二日
- 参加費 六万五千元(予定)



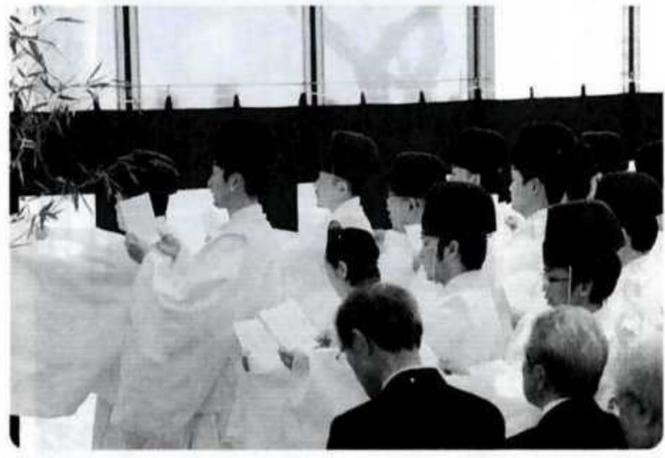
「お白石持ち行事」に参加を

## 東日本大震災 物故者慰霊祭

今年3月11日(日)午後2時から、宮城県石巻市の日和山公園において「東日本大震災物故者慰霊祭」が斎行されました。祭場の日和山(ひよりやま)公園は小高い山の頂上に位置し、震災当日は多くの方々が避難し、その後は慰霊に訪れる人々が絶えることのない地です。

慰霊祭には東北各県を始め、全国各地から多くの神社関係者が参列し、石巻市民、公園に慰霊に訪れた人々を交え約500名が、震災により帰幽された方々の御霊安らかなることを祈りました。

慰霊祭終了後、主催者の北白川道久神社本庁統理が「震災により帰幽された方々に対し、改めて衷心より哀悼の誠を捧げますとともに、御霊安らかに鎮まりますことを祈年申し上げます。ご家族、ご親族、御縁深い方々の悲しみは一年を経た今もなお大きく、帰幽さ



れた方を偲ぶお気持ちには切なるものがあろうかと思えます。本日の慰霊祭では、私どももその御心と心を一つにして、御霊の平安を只管(ひたすら)乞祈奉(こいのみまつ)りました。：神社本庁と致しましては、被災地の復旧・復興には人と人との絆を深め、力を結集することが何よりも重要であると存じており



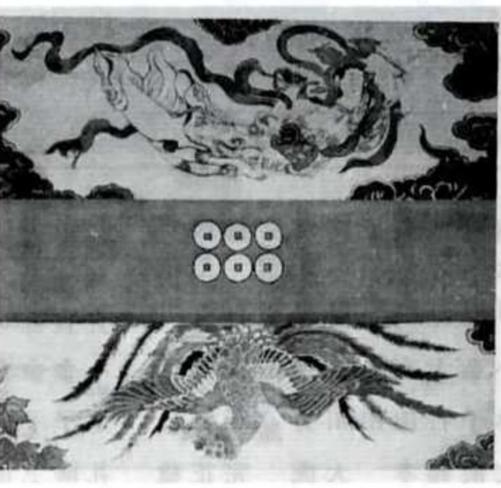
ます。そのためにも、人々の心をついに結ぶ伝統神事の重要性に思いを致し、鎮守の森と、氏神様を中心とした地域社会の再生に資するべく、神職、役員、総代、氏子の方々と心を合わせ手を携えて努めてまいります。と存じます」と挨拶しました。

【上の写真は慰霊祭。左は被災地の現状】



神社 拜殿脇に設置された復興祈願「絵馬掛け」

## 御本殿正面内陣御扉上の桁に描かれている真田家の家紋「六文銭」



看板文 本殿は享禄二年(一五二九)沼田万鬼斎顕泰が建立、元和元年(一六一五)真田伊豆守信之が改築した、安土桃山文化を今に伝える銅板置流造りの社殿。東西両側の彫刻は左甚五郎作と伝えられ、まりで遊び獅子やインド象がみられる。

「六文銭」は戦場に赴く際の決死の覚悟を家紋・旗印としたもので、榛名様を拝むと同時に真田家をも捧ませる意図があったといわれる。また、境内石造り鳥居は真田大内記信政の奉納である。